



「水海道染色村きぬの染」として参加し、展示販売を続けています。現代と融合していくことで技術は継承されていきますし、未来も見えてくると思います。身につけた技術と感性を力にして現代が求めるものに打ち込んでいきたいと思っています。

**議会**

染色の仕事のやりがい（楽しさ、喜び、大変なことなど）を教えてください。

**石山氏**

30年前のことですが、個展を開催中に、一人の御婦人が「生命の歓喜」というタイトル作品の前で立ち尽くし何か深く考え込んでおられ、帰り際に「尊敬している方を亡くした悲しみの中、偶然にこの作品に出会い、また頑張っ生きてようと励まされました」との言葉をいただきました。このように作品に込めた思いが、作品を通して伝わり触れ合い響き合えることこそ表現者の喜びだと思います。毎月新しい

ものを作っていますから経済的に大変ですが、私の世界（生活に美と潤いを求めて）をどのような方法で広く伝えれば良いのかうよまよくせつの日々です。理想と現実との狭間で苦しむのは美術家の宿命でもあります。

**議会**

今後の展望を教えてください。

**石山氏**

伝統工芸は常に時代と融合し、今日まで生き延びてきました。現在、友禅染の魅力を広げるために常総市と土浦市で教室を開いており、教室の生徒さんたちも自作の友禅染作品で生活空間を演出して楽しんでおります。今後は、某商社が立ち上げたブランドで海外も含め制作者の一員として積極的に発信し、「この染色村は多くの染色家のロマンと情熱で創り上げたコミュニティである」ということを具体的な形にして後世に伝えたいと思います。



**議会**

未来ある若者たちへメッセージをお願いいたします。

**石山氏**

私が今まで染色を続けていて、自分に湧き出てきたエネルギーは何か。それは反骨精神です。自信のある作品ができて、些細なことで気持ちや考えは揺れ動かされます。不動の自分にはなれません。でも、何か対象があって、そこに向かうことは一つのエネルギーとなり周りを動かしていきます。ですから、皆さんには情熱と反骨精神を持って闘ってほしいと思います。そして、強く在りたいという自分を思い起こしてほしいと思います。

（令和3年7月インタビュー）

※インダストリアルデザイナー…機械や自動車などの工業製品のデザインを行う職業のこと  
※タペストリー…壁掛けなどの室内装飾



**【水海道染色村きぬの染所属作家】**

- 友禅染作家 石山 修 (☎2713025)
- 奥谷染芸 奥谷 好文 (☎2713611)
- 小林染芸 小林 義一 (☎2710164)
- 染色工芸 佐古 章 (☎2712053)
- 手描友禅 宮嶋 康哲 (☎2712057)